

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100329		
法人名	株式会社ホーリー・ポーリ		
事業所名	かずさ三条の里		
所在地	千葉県富津市下飯野998		
自己評価作成日	2012/01/20	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成24年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭環境のもとで、介護サービスを行い、安心・尊厳のある生活、自立支援。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・瀟洒なりゾート感のある複合施設の一角にあり、敷地内には広い庭園、近隣には森や神社があり、豊かな自然環境に恵まれています。また、ホーム玄関や庭には小鳥や金魚や犬が飼われていて、利用者を楽させています。
- ・リビングや浴室、トイレ等の共有スペースの掃除が行き届いていて清潔感があり、気持ちよく過ごせる空間・環境となっています。
- ・職員へのヒアリングでも「とても働きやすい施設です」と率直な感想が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ている	理念は“地域と共に”と“穏やかに自分らしく暮らす”です。この掲示が分散されており、一体の理念として理解できません。最近では月1回の職員会議が開催されておらず、理念の共有や実践の職員研修ができていません。	「地域の一人として穏やかに自分らしく暮らしていく」事業所を目指すとの理念を一体化し、職員には行動指針や倫理綱領で意識づけをし、利用者・家族には日常的に周知を図るため施設内に掲示するなどして、事業所が理念実現に向けて取り組む姿勢を強く発信することが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来ている	近所の神社の秋祭りには利用者が招かれ歌やゲームを住民と共に楽しんでいます。また、神社の龍神の舞を昨年は公民館に見に出かけましたが、重度の利用者も楽しめるよう、今年は施設の庭で演じて貰うよう依頼しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が充実できていない。	年間3回の会議を開催しましたが、行政側と地域代表者の出席が得られませんでした。したがって議題は、利用者・家族・職員との施設内の事業報告、行事案内等でした。	2012年は3～4月に第1回の会議を市の職員の出席で開催を予定しています。施設が地域の福祉拠点として貢献するために、この運営推進会議を活性化していくことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連携をとっています。	ホームの運営者は、グループホームの他に通所介護やグループリビングを運営する法人の社長であり、市の担当者とは随時打ち合わせをして地域福祉の貢献に向けて意見交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	玄関から1階のユニットと2階のユニットいずれも、施錠なく移動できる自由度があります。開設した8年前には夕暮れに徘徊の気配を催した利用者が今や寝たきりになっていて、徘徊の懸念が薄れてきています。	外出支援は施設での心身の拘束感や閉塞感を開放します。2回の外出プログラムが実施されていますが、施設内の広い庭園や近くの神社など絶好の癒しの場所に出かけ、自由な外気を楽しむ更なる取り組みが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族と話し合い、必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や、介護計画作成時に意見を聞くようにしています。	週1～2回は施設に来所する家族が80%で、意見を聞くことは容易です。ホームでは、利用者・家族・施設がこの地域に密着しており、家族会設立の必要はないとしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングであがった事について、必要に応じて改善させる必要がある事については、改善しています。	8年前の開設時からの職員が多く、面談の折にも「働きやすいです」と笑顔で答えていました。現在は職員が一堂に集まることは人員不足のため困難なので、職員の意見集約の場である月1回の職員会議は開催できていません。	職員の意見や提案を聞く機会や利用者サービスのさらなる質の向上の為に、経営層は職員との対話と研修に取り組んでいくことが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の会議に参加、研修へ参加等を通じて交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。意思の確認が取りづらい方については、ご家族から話を聞いたり、様子を見て判断しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約書等の説明時に聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも紹介して、選択していただく幅をもっといただき、選択してもらいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	家族の面会が多く、家族と外出する場合があります。たまにですが利用者と以前に職場で一緒だった方が来訪し、歓談しています。また、以前に通っていた美容院に職員が送迎する等して、利用者にとって馴染みの場との関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ている。	利用者の希望に添って塗り絵や輪投げなど、気の向いた時に隣接するデイサービスの施設に出かけて楽しんでいます。意思把握が困難な方には、家族から生活歴を聞いたり、表情やしぐさから判断し支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている。日々の細かな気付きに対しても、管理者を含め話し合いをし、介護に役立てています。	本人や家族の意向を反映し、計画作成担当者を中心として職員間で介護計画を作成しています。3ヶ月毎に定期的に見直し、入退院時など変化のあった時は随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	訪問看護師が週1回来訪し、風邪や皮膚疾患、水虫などの治療を行っています。利用者の体調変化時等必要があれば、医療機関と連携を取り速やかに対応しています。更に、訪問歯科が週1回来所し、虫歯の治療や義歯の調整を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	入所時に、家族から「重度化した場合における対応に関する指針」について確認書を貰っています。病院で食事の摂取が難しくなった利用者に医師から胃ろうを勧められましたが、延命治療を本人や家族が望まず、ホームに戻り本人に合った食事を提供した結果、訪問看護師からの助言のせいもありますが、食事が出来るようになり、以前と同じ生活が可能となった例があります。	利用者の高齢化・重度化が進んでいるのがホームの実情です。職員が終末期に関する内部及び外部研修を受け、終末期に対する認識を深め、支援のあり方を職員間で共有することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎講習を受講するよう促している。マニュアル見て勉強するように促している。日々起こった事で対応出来るよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いろいろな資料をみて、勉強をしています。重度の方の対応を日々検討しています。	6月に消防署による消防訓練を午後の2時間受けることができました。発煙し点灯する出火元を探し、消火器をもって消火作業し、声掛けで消防へ通報したり、避難誘導する訓練でした。	市の当該区内にある建物や施設等所有する事業主は防災と予防活動を行うために年々「地域消防団への協力費」を多分に支払ってきており、施設の消防訓練への参加協力を依頼してはいかがかと思われれます。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしていますが、完ぺきではありません。日々の声掛けにおかしいと思った時は、その場で注意をしています。	利用者には「さん」付けで呼ぶように心がけ、同じ苗字の方は名前で呼んでいます。「ちゃん」と呼ぶことのある職員には注意しています。トイレ介助の時に、中まで入らないで外で待っていたり、入浴時には早目にバスタオルを掛けるなど羞恥心に配慮をしています。	職員に「ちゃん」で呼ぶ方がいたりするのは人手不足も一因と思われますが、プライバシーを傷つけないコミュニケーションの取り方の工夫を職員間で話し合う事が期待されます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援してる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が年々低下して、手伝える事ができなくなってしまっています。	食事は併設のデイサービス施設から届き、ホームではご飯を炊いたり味噌汁、焼き魚、卵焼きなどを作っています。利用者の必要に応じて刻みやミキサー食対応を支援しています。食欲のない方には、食間に栄養食のゼリーなどで補っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	個人のチェック表を下に排泄パターンを把握し、少し早目の誘導に心がけています。重度化してベッドでの生活が多くなった利用者でも、タイミングや気分などの様子を見て、ポータブルを利用したり車椅子でトイレに誘導する支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は、決めています、本人の希望を聞いて他に変更したりしている。	原則週3回、午後に入浴を支援しています。体調により入れない場合は、清拭に切り替えたり翌日に延ばし無理のない対応をしています。湯船に入った時にリラックスするせいか、普段は無口な利用者が話しかけるので、職員は傾聴に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化してきているので、なかなか外出ができませんが、できる方については、希望を聞いて支援している。	気候の良い時期には、週に約2回、30分程度散歩に出かけています。利用者の希望があれば、雑貨や化粧品などの買い物に職員と共に車で出かけています。靖国神社にお参りに行きたいとの希望が出た時には、他の利用者にも声をかけて数人で出かける等利用者ニーズに応じています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方については、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。	玄関には、インコやオカメインコが声をあげています。大きな黒い出目金魚が水槽で泳いでいます。庭園広場にはアヒルが水遊びし、庭園回りを番犬2匹が警備しています。開設以来2人の要員が掃除と洗濯に専従しているので、リビングや浴室、トイレ等の共有スペースの掃除が行き届いていて清潔感があり、気持ちよく過ごせる空間・環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。	居室はクローゼット付きで、私物の持ち込みは原則自由です。仏壇で位牌を拝む利用者には火の元のある線香は厳禁とし鐘の音は自由にしています。集団生活である大前提を規律として守ったうえで、最大限自由な生活をしていただきたいと考えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫をしている。		